聴覚障害者と交流を図る 手話サークルおく

和やかな雰囲気で手話を学習

「これから読み上げる文を、手話でしてください」。リーダーが声掛けをすると、手話の理解度に合わせた内容の文が読み上げられ、一人ずつみんなの前で手話をします。この日の参加者は20人。手話でのやりとりが始まりました。

みんなで確認しあいながら手話をするサークルの皆さん

『手話サークルおく』は、手話を通じて、聴覚に障害のある人との交流を図るサークルです。会員数は40人。第1・2・3水曜日に、邑久町公民館で活動しています。

このサークルは、手話を学習し、地域に広め、手話通訳者を育成することを目的として活動していますが、聴覚障害者と健聴者の交流を図ろうといろいろな行事も計画しています。他地域のサークルとの交流会やボーリング大会、文化祭への参加などの活発な活動を展開していく予定で、皆さん、とても楽しみにしています。

サークルで通常している活動は、単語のやりとりや長い文章を手話で表現するというもので、会場は披露されるたびに、拍手とともに和やかな空気に包まれます。

長い文章もゆっくり確実に

窓口案内のお手伝い

また、第2・3・4月曜日の午前9時から正午まで、市役所の1階で窓口案内のお手伝いを、手話ボランティアの皆さんがしてくれます。毎週、手伝ってくださる三谷朝子さん（邑久町北島）は、手話にかかわって15年。三谷さんは、「小さい頃に聴覚障害者の人が、意思を伝えられなくて、悲しそうな顔をしていたのが、忘れられなかった。いつか、そんな皆さんの役に立ちたい」と始めたそうです。

利用者は、「複雑な手続きでも、意思を伝えてくれるボランティアの人がいると、手続きがスムーズにできて、やりやすい」「今までは、聞くことができなかったことも、聞けるようになってよかった」と大変喜んでいました。

三谷さんは、「聴覚障害者の皆さんのうれしそうな顔を見るときや理解してくれていると手ごたえを感じたときがうれしいです。これからは、通訳者のいらない世の中、みんなが手話のできる世の中になればいいと思います」と話していました。

利用者　兒島嘉彦さん
（７０歳・邑久町本庄）

サークルのみんなはよく勉強しているので、とても手話が上達したと思います。

市役所の窓口案内も2年前からできて、わたしたちも安心して手続きができるようになりました。聴覚障害者のみんなも、とても喜んでいて、表情も明るくなったと思います。これからも、続けて欲しいです。

市役所１階でボランティアさんが窓口案内をお手伝い

愛用していたおもちゃの音が出なくなり、その症状を説明中

使えなくなったおもちゃがよみがえる せとうちおもちゃの病院

壊れたおもちゃ治療します

4月から毎月最終土曜日に牛窓町公民館で、『せとうちおもちゃの病院』が始まりました。おもちゃの病院とは、まさに壊れたおもちゃを直してくれる病院。

この日も、生後6カ月の頃、おじいちゃんとおばあちゃんがプレゼントしてくれたおもちゃの音が出なくなったと、是信有汰ちゃん（3歳・邑久町山田庄）の家族が来院。愛用していたおもちゃを見つめ、スタッフに症状を話す有汰ちゃんの顔は、とても心配そうです。スタッフの皆さんは、みんなで知恵を出し合って、直し始めます。分解して悪い個所を見つけ、修理します。その日に修理できそうにない場合は、おもちゃに病院へ入院してもらい、後日取りに来てもらいます。

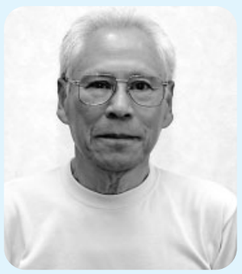
「壊れたおもちゃが直って、子どもに渡したときの笑顔が忘れられない」と、修理に余念のないスタッフの皆さん。最近のおもちゃは精密化して、直すのが難しいようですが、子どもたちの期待を裏切らないように、懸命に治療します。

家庭でいらなくなったおもちゃや壊れて使えなくなったおもちゃでも、捨てないで創意工夫し、リサイクル。おもちゃの先生の手で、また息を吹き返します。

廃材を利用し、オリジナルのおもちゃづくりに挑戦

牛乳やジュースの紙パック、ペットボトルで、昔ながらの手作りおもちゃを作ります。紙飛行機やヨーヨー風車、トラック、竹とんぼなど、自分の興味のあるものに子どもたちが挑戦。

「次どうするの？」の質問に、少しのヒントを与えると、自分で工夫し、オリジナルおもちゃを作る子どもたち。完成したおもちゃで遊ぶ子どもたちは、笑顔が満開です。


院長　野口博義さん
（71歳・牛窓町牛窓）

機械いじりの好きな人たちが集まり、子どもたちの笑顔に囲まれ、楽しい時間を過ごしています。

立ち上がったばかりで、現在は『倉敷おもちゃの病院』のスタッフの皆さんにも手伝ってもらっています。仲間を募集中なので、興味のある人は、ぜひ来てみてください。一緒にやってみませんか？

連絡先　瀬戸内市社会福祉協議会牛窓支所　☎0869－34－6924

紙パックでヨーヨー風車に挑戦